



人口が増加したら 水が足りなくなりませんか？

A9

那須野ヶ原は扇状地(砂礫層)のため、歴史的に見て「水」の少ない地域でしたが、現在は那須疏水が那須の大地を潤しています。

那珂川流域には十分な水量がありますが、国会等の移転は、数十年にわたって段階的に行われることから、移転段階に合わせた水源確保や水道供給施設の整備を行うことにより、水不足への対応が可能です。

もっとくわしく！

○国会等の移転により整備される新都市は、「環境共生」の都市を目指しており、資源の循環利用の観点から、新技術導入により、水需要量は約27%低減することが出来、1日1人あたりの必要取水量は411ℓとすることが可能と考えます。

○「北東地域首都機能移転モデル都市構想」では、都市の成熟段階を国会等移転審議会が想定する56万人よりも少ない30万人と想定していますので、那須地域の水供給については十分対応可能であると考えます。

○30万人の新都市は、一ヶ所に集中するのではなく、クラスター(ぶどうの房)状に3万から10万人単位の小都市が、那須地域から阿武隈地域の広い範囲に分散して配置されますので、那須地域の水供給にはあまり負担がかかりません。

重要

水需要量の想定

現在の使用実績などから、1日1人あたりに必要な取水量を565ℓとして試算すると、国会等移転審議会が想定した移転第一段階10万人で毎秒約0.5~0.65m³(年間約0.2億m³)、移転が完了する成熟段階56万人で毎秒約2.7~3.7m³(年間約1.2億m³)となります。

水供給可能量

那珂川流域の利用可能な水資源賦存量※は、平年で年間約18.4億m³、渇水年で年間約9.4億m³となっており、総量的には十分対応可能です。

※降水量から蒸発量を差し引いて、当該地域の面積を乗じて求めた数値



那須疏水

さらにくわしく！

那須疏水の水は、那珂川上流にある西岩崎頭首工(頭首工とは取水、土砂吐機能を備えた取水用構造物)などから取水しております。

西岩崎頭首工は、もともと明治18年につくられ、その後、現在までに、明治38年、大正4年、そして昭和51年と3回の大きな改修が行われています。

この取水口からの最大取水量は8.94m³/sです。また、那須野ヶ原の全ての用水の取水量の合計は約15m³/sになります。



西岩崎頭首工